

わくわく

R1. 10. 26
小値賀小学校
図書室だより

読書週間

朝晩はめっきり涼しくなり、陽が落ちるのも早くなって、いよいよ「読書の秋」がやってきたように感じます。

10月27日（日）からは「第73回読書週間」です。今年のテーマは、『おかえり、葉（しおり）の場所で待ってるよ』です。「秋・読書週間に、ぜひ、一冊の本を」が活動の原点です。「読書週間」は、読書の楽しさを伝え、すべての世代の人たちに本を読むきっかけを作るためにあります。

小値賀小学校図書室では、10月15日（火）から10月28日（月）までを『小値賀小読書週間』としています。家庭での読書記録（どんぐりカード）、図書委員会のおすすめの本紹介、委員会全校発表を計画しています。

今年度も「親子読書（2日間）」を予定しています。親子でたくさんのお本に触れて、本の世界を旅してもらえればと願っています。ご協力お願いいたします。



読書週間の歴史



終戦まもない1947年（昭和22）年、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているなかで「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、出版社・取次会社・書店と公共図書館、そして新聞・放送のマスコミ機関も加わって、11月17日から、第1回『読書週間』が開催されました。そのときの反響はすばらしく、翌年の第2回からは期間も10月27日～11月9日（文化の日を中心にした2週間）と定められ、この運動は全国に広がっていきました。

そして『読書週間』は、日本の国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民の国」になりました。

いま、電子メディアの発達によって、世界の情報伝達の流れは、大きく変容しようとしています。しかし、その使い手が人間であるかぎり、その本体の人間性を育て、かたちづくるのに、「本」が重要な役割を果たすことはわかりありません。暮らしのスタイルに、人生設計のなかに、新しい感覚での「本とのつきあい方」をとりいれていきませんか。

『読書週間』が始まる10月27日が、「文字・活字文化の日」に制定されました。

長崎県の子どもにすすめる本500選

長崎県の子どもにすすめる本500選として、低・中・高学年にそれぞれ100冊ずつのおすすめの本があります。図書室にも、赤は低学年向き、黄色は中学年向き、青は高学年向きで置いています。